



第17回eco検定試験総評 (2015.2.3)

2014年12月14日に行われたeco検定試験の公式な回答が1月30日に公開されました。当社で公開していた解答速報の内容に誤りはありませんでした。これらを受けて、第17回の回答関連ワードとその公式テキスト該当ページをホームページ上で公開しております。それと合わせまして、下記に第17回eco検定試験の総評をまとめます。

■受験者数

	受験者数	実受験者数	合格者数	合格率
第16回	13,575	12,094	6,376	52.7
第17回	14,642	13,059	6,342	48.6

ここ数年の開催では徐々に受験者数が下がってきてきましたが、第17回で若干の増加となりました。ただ、合格率に関しては、eco検定が開催されて初めて50%を切りました。

■合格率の低迷

第17回eco検定試験の合格率は公式の発表にて48.6%となりました。この合格率は過去のeco検定試験の中で最低値となっています。この背景には、試験の難易度が上がっていることに加え、これまで述べ33万人以上が受験し、約20万人が合格しているという実績が関係していると考えられます。

つまり、受験者のうちの環境への知識の高い層はすでに受験し終え、徐々に興味はあるが知識はない、eco検定をきっかけに勉強したいといった層の割合が増えているためと思われます。

■出題傾向の変化

問題	出題傾向の変化
第二問2-1	公式テキスト内の知識だけでなく問題のグラフから解答を導き出す出題が見られた
第二問2-2 第四問 等	第二問2-2であれば第5章の環境ラベルのコラム、第四問では第3章の6「地球環境問題」がまるまる出題された。
第九問	第九問の(イ)の中国という解答はテキストには出てこない。テキストで紹介されるFAOの「世界森林資源評価2010」の中で述べられている。

公式テキストの改訂に伴い、出題傾向にも変化が見られます。大きな変更としては、これまでは公式テキストに答えがあり、無ければ時事問題と言えましたが、第17回では表のように、公式テキストの知識や時事問題だけでなく、グラフの読み取りや、公式テキストで出てきた資料の中で述べられていることが問題になるなど、これまでにない出題方法が見られました。

■今後のeco検定

出題傾向の変化でも述べたようにテキスト上の知識と時事問題だけでなく、環境に関する情報収集への意欲も問われているように感じられました。そのように試験の傾向が変化の中で、当社への問い合わせにも企業として新しく社員教育の一環として、または大学から学生の取り組みの一環として、eco検定を活用しようとする動きが感じられます。

今回の合格率の低さからまた受験者数に歯止めがかかってしまうことも懸念されますが、今回の合格率は冒頭で述べた受験者層の変化と、公式テキストの改訂を機に、ただテキストの知識を得るだけでなく、テキストの知識を土台に、時事問題を含め環境に関する情報に自分からアクセスすることを学べるような試験へと変わろうとするeco検定試験の変化との組み合わせによるものと思われます。(あくまでユニバース講師陣の私見です)

テキストの改訂から2回の試験を終え、出題傾向の変化も落ち着いてくるものと思われます。今回の出題傾向が継続されれば、一度合格された方も再チャレンジすることに有意義なものとなります。それはまた、受験者の増加、合格率の安定にもつながると考えられます。